

パフォーマンステスト「ドリーム・トーク」(第8時)

|        |                                                                                                                                                                      |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 測る力    | 話すこと [やり取り] : 中学校でしたいこと・なりたいものを伝え、質問に応じられるか (知識・技能 / 思考・判断・表現)                                                                                                       |
| 形式・時間  | 先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で (待機イス1つ)。トークメモを持って来てよい。                                                                                                                     |
| ことばの条件 | 黒板の「3文の型」 (I want to join .... / I want to .... / I want to be a ....) と「I want to try .... / I don't know yet, but I like ....」は掲示したままでよい。絵カード (提示用1部) はテスト席に置いておく。 |

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか (これが崩壊しない鍵)

| グループ       | やること                                                   | 用意する物           |
|------------|--------------------------------------------------------|-----------------|
| A (テスト中の班) | 順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする                  | トークメモ (活動シート2)  |
| B          | 3人組でミニ・トークショー (小聲で・役を交代)                               | 活動シート2 (トークメモ)  |
| C          | トークメモのあいているところに、中学校の自分へおくる一言 (I want to ....) をていねいに書く | 活動シート2          |
| D          | 振り返りカードの「6年間のまとめ」を書く (書けたら席でBと同じことをする)                 | 振り返りカード (学校のもの) |

1班終わるごと (9~10分) に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる (テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8~9人・約1分×35人で35~40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと (待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。人前が苦手な子は、イスの向きを変えて教室に背を向けさせる (先生は教室が見える向きのまま。ついたては使わない=待っている班が見えなくなる)。



## 先生の質問カードと、評価しないこと

**先生の質問カード** この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

**1 Hello! How are you?**

（あいさつ・緊張ほぐし。ここは評価しない）

**2 What club do you want to join?**

（I want to join .... が出るか。メモやカードを見せながらでOK）

**3 Why?**

（部活のわけ。I like music. で十分・答えられなくてもよい。なりたいものに Why? は使わない）

**4 Nice! What do you want to do at junior high school?**

（したいことを1つ。出にくければ Study English? Or play sports? と2択にして I want to .... で言わせる）

**5 And what do you want to be?**

（I don't know yet, but I like .... も同じ評価。追及しない。そのあと3秒だまって待つ＝質問が返れば思判表 a）

**6 Great! Good luck at junior high school. See you!**

（お別れまでがテスト）

**評価しないこと** 「夢が決まっているかどうか」は絶対に評価しない——I don't know yet, but I like science. は満点の答え。なりたいものの中身・進学先・家庭の事情にも踏みこまない。文の数や発音の正確さより「伝えようとする工夫」（メモを見せる・ジェスチャー・言い直す）を上に見る。

ルーブリック（3観点）と記録シート

| 観点                   | a（十分満足）                                                                                                                                     | b（おおむね満足）                    | c（支援が必要）→その場でする支援                                                            |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 知識・技能                | I want to join .... / I want to .... / I want to be a .... を組み合わせて、中学校でしたいことになりたいものを3文でまとまりを保って伝えられる（I don't know yet, but I like .... も同じ） | 支えの質問を受けながら、したいことを1～2文で伝えられる | カードを指しながら単語（tennis! / florist!）で伝えられる→掲示の型と一緒に指さし、I want to .... の1文だけ再挑戦させる |
| 思考・判断・表現             | 質問の内容に合う答えを選び、Why? や先生のひとことにも反応を返すとともに、相手のことが止まった場面では習ってきた言い方を組み合わせて質問を1つ作り、やり取りを終わらせずに続けられる                                                | 質問に合った答えを返せる                 | 質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、絵カード2枚を見せて選ばせる                                         |
| 主体的に学習に取り組む態度（単元全体で） | トークショーで役を交代しながら言い方を工夫し、相手が答えに迷う場面でも自分から問いかけ、Good luck! まで話を続けようとしていた                                                                        | 活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている      | →振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれの話聞いて、中学校が楽しになった？」から）                                      |

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

| 番号 | 名前 | 知技    | 思判表   | メモ（1語だけ） |
|----|----|-------|-------|----------|
| 1  |    | a b c | a b c |          |
| 2  |    | a b c | a b c |          |
| 3  |    | a b c | a b c |          |
| 4  |    | a b c | a b c |          |
| 5  |    | a b c | a b c |          |
| 6  |    | a b c | a b c |          |
| 7  |    | a b c | a b c |          |
| 8  |    | a b c | a b c |          |
| 9  |    | a b c | a b c |          |
| 10 |    | a b c | a b c |          |
| 11 |    | a b c | a b c |          |
| 12 |    | a b c | a b c |          |

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

## この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】I want to .... の言い方を join the ~ club、be a ~ の形と組み合わせを使い、入りたい部活動・中学校でしたいこと・なりたいものを3文で続けて伝えることができました。

【知技・b】中学校で入りたい部活動を I want to join the .... で言い、まだ決まっていないときの I don't know yet, but I like .... も自分で選んで使えるようになりました。

【思判表・a】司会から Why? とたずねられた場面でも、選んだ部活動と結びつく理由を自分のことばで返し、ドリーム・トークショーで質問の内容に合う答えを選ぶことができました。

【思判表・b】トークメモに書く3文は、聞いてくれる相手に中学校でのことが伝わるかを考えて選び、したいこととなりたいたいものがつながるように順番を決めて話すことができました。

【態度】4すみアンケートでは、動いた先で出会った友だちに I want to join .... を言い、決めていないときはまんなで自分の好きなことを英語にしようとしていました。

【態度】英語でうまく言えなかったところを次の相手のときに言い直すなど、ドリーム・トークショーの役を交代しながら、最後まで自分の思いを伝えようとしていました。

【はげまし型】トークメモの3文をていねいに書き上げ、司会の質問に1文ずつ答えることができました。おうえん役では Good luck! を相手に届けており、ゲスト役でも言える文がふえてきています。

【接続型】これまでに親しんだ I like .... や I can .... に I want to .... を重ねて、これからのことを英語で伝えられるようになりました。中学校の最初の自己紹介にそのまま生かせる力が育っています。

【発展・★3】トークショーのゲスト役では、なりたいたいものと入りたい部活に、そう思うわけが伝わる文を重ねて五つ以上を並べ、聞く人のほうを見ながら30秒を超えて話しました。

**書き方の型** ①活動名（具体）・②できるようになったこと（評価規準のことば）・③子どもの姿（1つだけ）の3点で書く。順番は入れ替えてよく、どれも同じ文型に見えないよう書き出しを変えてある。将来の夢の中身や進学先には触れない（家庭の状況に直結するため）。「夢が決まっていない」ことを課題として書かない。書くのは「伝え方」の成長だけ。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。